

2016 いなげの浜オープンウォータースイムスクール

実施報告書

NPO 法人京葉インターナショナルスポーツ倶楽部
クラブマネージャー 杉本宏樹

【主催】 NPO 法人京葉インターナショナルスポーツ倶楽部

【後援】 千葉市
公益財団法人千葉市スポーツ振興財団

【協賛】 山本光学株式会社

【協力】 株式会社大塚製薬工場
千葉県トライアスロン連合
千葉市トライアスロン協会
Lapulem
nararun

【場所】 稲毛海浜公園・いなげの浜

【期間】 2016年7月23日（土）～2015年8月27日（土）

【定員】 40名/1回

【参加費】 2,000円（インターネット事前申込みの場合、別途手数料あり）
※事前申込みで一度に複数予約の場合、下記料金設定となる

【参加条件】 400mを立たずに泳げる高校生以上の健康な男女

【時間・参加者数・気象条件など】

実施回	日程	時間	参加者	気温	水温	潮目
第1回	7月23日	14:00-16:00	39名	26℃	22℃	中潮(干 13:07、満 19:41)
第2回	7月30日	13:00-15:00	34名	34℃	30℃	中潮(干 07:58、満 15:21)
第3回	8月06日	14:00-16:00	39名	32℃	30℃	中潮(干 12:59、満 19:12)
第4回	8月13日	13:00-15:00	34名	32℃	28℃	若潮(干 07:02、満 14:41)
第5回	8月20日	14:00-16:00	32名	29℃	26℃	中潮(干 12:14、干 18:36)
第6回	8月27日	13:00-15:00	17名	—	—	—

参加人数：のべ195名 ※事前申込者は240名
(昨年のはのべ173名 ※事前申込者は238名)

※第6回は台風9号の影響で、いなげの浜のブイやエイ防止ネットが破損し「遊泳禁止」
となったため、海でのスクール実施は「なし」とし、施設を利用した座学へ内容を変更

【講師・スタッフ・ライフガード・救護】

	氏名	所属	担当回数
■講師	杉本 宏樹	京葉インター	6回
	小池 賢	nararun	4回
	太田 麻衣子	Laplem	2回
	佐藤 志帆	京葉インター	1回
■スタッフ	松尾 祐樹	稲毛インター	6回
	川添 美佳	稲毛インター	4回
	佐藤 志帆	京葉インター	3回
	佐野 花夏	稲毛インター	1回
■ライフガード	御園 健二	稲毛インター	4回
	塚原 登	千葉県トライアスロン連合	4回
	堀内 敦子	稲毛インター	3回
■救護	石井 なおみ	千葉県トライアスロン連合	4回
	井花 元代		2回

【総 評】

いなげの浜オープンウォータースイム（以下OWS）スクールも6年目を迎え、「稲毛海浜公園で行う海の水泳教室」として定着してきた。昨年に引き続き、各回とも締切日前に定員へ達する盛況ぶりで、OWSのニーズが高まっていることを実感した。

昨今、トライアスロン大会のスイム競技で死亡事故が頻発していたため、安全管理体制には力を入れて、スクールの運営を行った。各回に必ずライフガードと看護師を待機させ、スクール前のミーティングではスタッフそれぞれの役割を明確化し、万が一の際には迅速に動けるような体制を整えた。今年は参加者がアカエイに刺されてしまう場面もあり、結果的に大事には至らなかったが、危険と隣り合わせのスポーツであることを痛感し、また常に細心の注意を払う必要性を感じた。

講師・スタッフ陣に関しては、本スクールの運営を複数年経験しているメンバーが多かったことから、連携も取れており、運営上で大きな問題点はなかった。

昨年同様、各回の定員を40名としたため、参加者数・申込者数ともにほぼ同等であったが、海の状態が悪くても中止にはせず、近隣の施設を借りて座学を実施することで、スクールのクオリティを昨年以上に向上させることが出来たと感じている。これもひとえに本スクールへご協力くださった関係各位と全スタッフのご尽力による賜物である。

また、今年度もスポーツ振興くじ助成事業として実施できたことにより、助成金を人件費や制作費、広告宣伝費などに広く活用することが出来た。今後もオープンウォータースイムを通じて、スポーツを楽しめる環境づくりやスポーツの普及に努めていきたい。

【運営面の課題】

- ①実施内容を変更した際の連絡がうまくいかず、会場を間違える方が数名いた
- ②回によっては受付備品が不十分であった
- ③講師が2名体制だとグループ内での泳力差が大きくなるため、3名体制が望ましい
- ④会場が赤潮や青潮に影響されやすい

【今後に向けて】

- ①メールでの案内だけでは不十分なためホームページを活用する。さらに、座学を行う施設を固定化しておき、「変更の際はこちら」と実施場所を明確にしておく。
- ②備品チェックリストなどを作成し、誰が担当しても漏れのないように対策する。
- ③県内の指導者が不足しているため非常に悩ましい問題であるが、現役選手などにも打診することで講師を確保していきたい。
- ④開催場所の環境を変えることはできないため、開催場所を変えることでスクール運営に支障を来さないよう講じることも一案。

【助成金額（交付決定額）】

助成区分	スポーツ団体スポーツ活動助成
事業細目名	スポーツ教室、スポーツ大会等開催（スポーツ）
事業名	いなげの浜オープンウォータースイムスクール事業
交付決定額	674,000 円

【助成金の使途】

- ・講師やスタッフ（運営、ライフガード、看護師）への諸謝金
- ・スイムキャップやエマージェンシーフロートといったスポーツ用具の購入
- ・コンディショニングガイドブックの制作
- ・雑誌への広告掲載宣伝費 など

【助成金を活用した制作物】



スイムキャップ（参加者、スタッフ用）



エマージェンシーフロート



コンディショニングガイドブック



雑誌 広告掲載

【スクール風景】



=以上=